

<estar+ 過去分詞>構文 (2) —— por 句をとる場合

高 垣 敏 博

1. <estar+ 過去分詞>叙述文

<estar+ 過去分詞>叙述文は、ある行為がなされた結果状態を表わす (1a,b) のような例が典型である¹。この叙述文は過去分詞として用いられる動詞がある一時点で完結する限界性 (delimitado, télico) と、それにいたるまでの継続性 (過程) との二つの語彙アспектをもつことを要件とする。

- | | | |
|---------------------------------|-------------|---------------|
| (1) a. La puerta está abierta. | 達成動詞 (状態変化) | <限界点+継続性> |
| b. El coche está aparcado aquí. | 達成動詞 (位置変化) | <限界点+継続性> |
| c. *El coche está conducido. | 活動動詞 | <限界点なし+継続性> |
| d. *María está amada. | 状態動詞 | <限界点なし+継続性なし> |

これに適合する動詞は (2) のような「達成動詞」で、状態変化を表すもの、位置変化を表すものが中心となる (作成動詞については後述)。

(2) 達成動詞 (realizaciones) :

- a. 状態変化動詞 : abrir (cerrar) una puerta, doblar una barra, romper un vaso
- b. 位置変化動詞 : poner (~ en), colocar (~ en), atar (~ a), pegar, aparcar
- c. 作成動詞 : construir una casa, pintar un cuadro, escribir una carta, componer una fuga

限界性をもたない (no delimitado, atélico) 動詞には (3) の活動動詞や状態動詞が含まれる。このような動詞からは (1c) (1d) のように、<estar+ 過去分詞>叙述文が形成されないことがわかる。

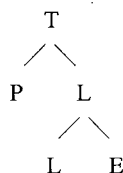
- (3) a. 活動動詞 (actividades) : conducir un coche, empujar un carro, tocar la pared, buscar un libro
- b. 状態動詞 (estados) : amar, detestar, odiar, temer

¹ 高垣 (2005) 参照。

1. 1 語彙アスペクト：限界性と継続性

Fernández Lagunilla & De Miguel (2000) によると、<estar+ 過去分詞>叙述文をつくることのできる達成動詞の事象構造は (4) のように「移行」構造をもつものに対応し、その構成局面は完結点に先行する過程 (Proceso) と行為の完結点である到達 (Logro) (またその結果状態としての状態 (Estado)) ということになる。これは、語彙アスペクトとして限界性と継続性 (= 過程) の二つの局面が必須要素であることを示している。

(4) 移行 **Transición(T)** T [P[L[E]]] : 例 *abrir la puerta, aparcar el coche*



この二つの局面の有無は概略つぎのように確認することができる。 *escribir el artículo* 「その記事を書く」(達成動詞), *conducir el coche* 「その車を運転する」(活動動詞), *detestar las zanahorias* 「ニンジンを嫌う」(状態動詞) の3種類の動詞の限界性の有無を <en+ 時間単位> (5), <acabar de+ 不定詞> (6), <una vez+ 過去分詞 (絶対過去分詞構文)> (7) などのテストで調べ、継続性の有無を <進行形> (8)² の成否で点検してみると、(5) - (8) ですべて (a) の「達成動詞」のみが正文となり、この両局面をもつことがわかる。

- (5) a. Ha escrito el artículo *en media hora*.
 b. *Ha conducido el coche *en cinco horas*.
 c. *Ha detestado las zanahorias *en varios años*.
- (6) a. Ha *acabado de* escribir el artículo.
 b. *Ha *acabado de* conducir el coche.
 c. *Ha *acabado de* detestar las zanahorias.
- (7) a. *Una vez abierta* la puerta, entraremos en la casa.
 b. **Una vez acariciado* el perro, no nos morderá.

² 達成動詞と活動動詞は継続局面を含んでいるために進行形になる。一方、状態動詞は時間軸で進展しない非動態的な状況を表すために進行形にはならない (Los predicados estativos denotan situaciones no dinámicas, que no evolucionan a lo largo del tiempo, como demuestra, precisamente, su incompatibilidad con la forma progresiva. Marín 2004: 22).

- c. **Una vez amada tu mujer, todo será más fácil.*
- (8) a. *Están {abriendo /arreglando /colocando /pintando} la puerta.*
 b. *Están {buscando /conduciendo /empujando /golpeando} el camión.*
 c. **Están {amando /detestando /odiando /temiendo} a María.*³

1. 2 por 動作主句

ところで、この<estar+過去分詞>叙述文は、主語が論理的には他動詞の被動者に相当するところから、<estar 受動文>であるとみなされることが多い。しかし、(9a, b) からわかるように、<ser 受動文>で見られるような por 動作主句をとることができない。

- (9) a. **La puerta está abierta por el bedel.* (cf. *La puerta es / fue abierta por el bedel.*)
 b. **Emilio estaba atado al árbol por los secuestradores.* (Conti 2004: 38)
 (cf. *Emilio fue atado al árbol por los secuestradores.*)

さらに、(10) からわかるように、能動文では可能な意図を表す副詞 (*deliberadamente* 「慎重に、故意に」) を伴うことができないこと、(11) のように活動局面 P を修飾すると考えられる様態副詞 (*violentamente* 「乱暴に」) を伴うことができないこと、などの根拠からも本来的な受動文とは認められないだろう⁴。

- (10) **La puerta está abierta deliberadamente.*
 (11) **Emilio estaba atado violentamente al árbol.* (Conti 2004: 38)

1. 3 作成動詞による<estar+過去分詞>構文

このような<estar+過去分詞>叙述文に分類されるはずではあるが、それでも por 句を伴う(12) のような例の存在が知られている。ここで用いられている動詞は (2c) の作成動詞 (*verbos*

³ (5)–(8) の例文は Marín (2004) による。本論の例文は出典を明記したもの以外は、スペイン人話者の Francisco Barrera, Arturo Varón, Roberto Herrero 氏のいずれかによるチェックを受けたものである。

⁴ これらはすべて ser 受動文では可能である。また、Conti (2004:38) によると、この叙述文は、時間軸の中でどれだけ延長されるかは非関与的な結果状態を表す。そして、その状態は完全に非焦点化されるようになった先行活動局面 (Actor が存在) の結果生まれるが、このことは Actor が por 前置詞句によって回復されないことやその先行局面を修飾する様態副詞が不可能であること (11) を説明する、ということになる。

de creación) として分類される達成動詞に該当する。

- (12) a. Este cuadro está pintado por {Velázquez / un niño / un inexperto / *Luis}. (Conti 2004: 39)
 b. Este artículo está escrito por una persona indocta. (Marín 2004: 61)
 c. *Esta casa está construida por mi abuelo. (Marín 2004: 61)

こうした作成動詞の場合には por 句がむしろ義務的となる⁵。

- (13) a. ?La casa está construida.
 b. ?El cuadro está pintado. (ともに Marín 2004: 28).

ここで可能になる〈estar+ 過去分詞 +por 句〉は形式だけから見ると、受動文であるといえるかもしれない。しかし、(12) のような文の por 句には受動文であるといえるような動作主性が認められるであろうか。

- (14) a. *Este almanaque está diseñado *voluntariamente* por Mariscal.
 b. */?Este cuadro está pintado por Velázquez *para solicitar* la gracia del rey. (Conti 2004: 40)

実際には、(14a) のように、意図性を表す副詞 (*voluntariamente*) を補うこともできないし、(14b) のように動作主の意図性を含意すると考えられる〈para+ 不定詞句〉を付け加えることもできない。したがって、この por 句は能動文主語に対応する動作主ではなく、それゆえ *ser* 受動文のように十全な受動文を構成しているとはいえないことになるだろう。

本稿では、この por 句は、叙述文の主語を「意味的に特徴づけ」ている義務的な付加詞であると考えておくことにする⁶。Conti (2004: 40) によると、「主語の特徴づけ」は、作成者が Velázquez や Mariscal のような世界的に著名な創作者であるか、“un inexperto”, “una persona indocta” のような不定句であるか、または、“El documento está firmado *por mi amigo, y no por el tuyo.*” のような対比句による場合であるという⁷。作品と世界的芸術家との関係、作品と予想外な属性(総称性)をもつ作成者との関係、対比的に強調された作成者のように、作成対象とは

⁵ 高垣 (2005) 5 節を参照。

⁶ (i) a. El documento está firmado por el embajador.

b. El abrigo está agujereado por las polillas. (ともに Marín 2004: 61-62)

のような「擬似作成動詞」については高垣 (2005) 5.3 節を参照のこと。

⁷ Marín (2004: 60), Hengeveld (1986) を参照。また、英語の擬似受動文に関する高見 (1995) も参考になる。

もともと何の関係もない一個人（Luis や mi abuelo）ではなくて，対象に何らかの意味で特徴的に関与する作成者の場合には por 句として付加されるのである。

1. 4 まとめ

本節では＜estar + 過去分詞＞叙述文について見てきた。語彙アスペクトにより分類される動詞ごとに，それがもつ限界性，継続性，por 句の随伴可能性，および ser 受動文との対応関係を (15) にまとめた。

(15)

	達成動詞	作成動詞	活動動詞	状態動詞
＜estar + 過去分詞＞	○	○	×	×
限界性（限界点）	○	○	×	×
継続性（進行形）	○	○	○	×
por 句	×	○	×	×
（動作主性）	/		/	
ser 受動文	○	○	○	○

(i) 完結した行為の結果状態を表すこの構文は，達成動詞が典型的にこれを可能にすること，(ii) 通常 por 句を伴うことはないが，例外として，達成動詞の一員である「作成動詞」では可能であること，(iii) ただし，作成動詞による叙述文は，ser 受動文のような本来の受動文とはなっていないこと，などが示された。

2. 「関係維持動詞」による＜estar 受動文＞

それでは，＜estar 受動文＞という受動文は存在しないのだろうか。文法書や教育の場面では上の＜estar + 過去分詞＞叙述文のみが記述され，＜estar 受動文＞に言及されることはあまりない。しかしながら，現実には por 句を伴う＜estar + 過去分詞＞構文に遭遇することがめずらしくなく，つぎの3タイプの実例が容易に観察されるのである。

- (16) a. El edificio está *rodeado* por la policía. <位置関係>
 b. La depresión está *causada* por el estrés. <因果関係>
 c. Este país está *gobernado* por un rey extranjero. <支配関係>

それぞれ，主客2つの項の間に，(a) では「位置関係」，(b) では「因果関係」，そして (c)

では「支配関係」が成り立つと考えられる⁸。3つの文に共通する特徴は、それらに対応する能動文と論理的に等価の関係的内容を表していることであるといえる。(16)の受動文は(17)の能動文と同じく、主客両者の間に成り立つ位置的关系や、因果関係、および支配関係が現時点を含めて持続するものとして⁹、それぞれ論理的目的語または論理的主語の観点から述べられているのである。

- (17) a. La policía *rodea* el edificio.
 b. El estrés *causa* la depresión.
 c. Un rey extranjero *gobierna* este país.

この一種の恒常的關係を、Bosque (1999: 293) は “*presentes extendidos, es decir, acciones que se presentan como coexistentes con el estado descrito, ...*” (拡張された現在, すなわち, 描写された状態と共起するものとして提示された行為) であると性格づけている。本論では、このような3つのタイプの動詞を「関係維持動詞」と呼び、以下で動詞ごとにその性格を明らかにしたい。

2. 1 位置関係動詞

最初に取り上げるのは主客二者の場所的な關係を表す「位置関係動詞」である。(18)のような動詞が位置關係を表すと考えられる。

- (18) 位置関係動詞: *limitar, ocupar, rodear, cortar, cubrir, incluir, contener, envolver, bloquear, sitiar, flanquear, encabezar, preceder*

まず, *por* 句が人間である例を (19) に示す。

- (19) a. El camino está *cortado* por los manifestantes.
 b. Cisjordania está *ocupada* por el ejército. (ともに De Miguel 2000: 212)
 c. El camino está *bloqueado* por el ejército. (Marín 2004: 61)

これらの文では, *por* 句を伴うことが義務的であり, これが明示されない場合には (20) の

⁸ 3節 [2] の「構成関係動詞」も参照。

⁹ これまで見た叙述文の *La puerta está abierta*. は対応する能動文 *Abren la puerta*. とは等価的關係にはなく, すでに起こった事態 *Abrieron [Han abierto] la puerta*. の結果状態を表している点でいま問題にしている関係維持動詞とは明らかに異なる。

ように非文となる。

- (20) a. *La ciudad está rodeada.
b. *El camino está cortado.

つぎに位置関係動詞がこの構文で見せる語彙アスペクトや動作主性などの特性を調べてみる。

①語彙アスペクト：(21a) は〈en+時間〉による，また (21b) は〈Una vez+過去分詞〉による限界性のチェックで，これにより位置関係動詞が限界点を含む動詞であることがわかる。

- (21) a. La policía rodeó el edificio *en una hora*. (De Miguel 1999: 3005)
b. ?Una vez rodeado por la policía, el edificio fue desalojado.

また進行形をつくることが可能であることにより，継続性の局面をもつこともわかる。

- (22) a. Los manifestantes *están cortando* el camino.
b. La policía *está rodeando* el edificio.

このことは達成動詞との類似性を示している。しかしながら，つぎに *ser* 受動文との平行性を見てみると，単なる達成動詞ではない，より複雑なアスペクトをもつ動詞であることが示唆されるだろう。

- (23) La puerta {*está* / #*es* / *fue*} abierta.¹⁰

(23) の達成動詞 (*abrir*) は，現在時制の “*es*” では「習慣」(もしくは，「このとき～されるのであった」という歴史的現在) の意味で用いられるが，「いまドアが開けられつつある (あつ

¹⁰ 他の動詞での平行性も見ておこう。

- (i) a. El cuadro {*está* / #*es* / *fue*} pintado por Velázquez.
b. El coche {**está* / #*es* / *fue*} conducido.
c. María {**está* / *es* / ??*fue*} amada (por todos).

(a) の作成動詞 (*pintar*) を除くと *estar* が許されない。(a,b) の “*es*” はともに「いま～されているところである (あつた)」と過去の事実を現時点に引きつけて報告 (歴史的現在) する読みでは許容される。一方，(c) は状態動詞で “*es*” と典型的に適合し，持続する「状態」を表す。

た)」という動態的意味には解釈されない。一方、「位置関係動詞」では(24)のように、現在時制で *estar* と *ser* の両方において、いま行為が進行しているという意味で用いられるのである。

- (24) a. El edificio {está / es / fue} rodeado por la policía.
 b. El camino {está / es / fue} cortado por los manifestantes.

Bosque (1999: 294)によると、“*estar*”が用いられると静態的 (*situación estática*)で、“*ser*”では動き (*movimiento*)という特徴的の差が感じられるものの、ともに行為性や動作主性が含意されるといふ¹¹。これにより、位置関係動詞が含む語彙アスペクトは、「(限界にいたるまでの)過程 (継続性) + 限界性 (ある時点での完結) + 現在における進行 (静態的動作)」という多面的な複合アスペクトをもつことになる。

②動作主性：位置関係動詞による<*estar* + 過去分詞>構文に動作主性が含まれることが(25a)の<意図性副詞>テストと、(25b)の<*para* + 不定詞>による意図性テストにより確認することができる。

- (25) a. ?El edificio está rodeado *deliberadamente* por la policía.
 b. El edificio está rodeado por la policía *para capturar* a los terroristas.

このように、位置関係動詞による<*estar* + 過去分詞 + *por* 句>の構文が、対応する能動文と論理的に等価の意味を持ち、能動文がもつ動作主性を受け継いでいるので、本論ではこれを「*estar* 受動文」であるとみなすことにする。

ついでながら、*estar* 受動文の主客二項の間に意味的・認知的適合性が存在することが前提となることを見ておきたい。

- (26) a. La calle está cortada por los manifestantes.
 b. *La calle está cortada por el líder de los manifestantes.
 (27) a. El campus está ocupado por el ejército.

¹¹ (i) a. En este momento la ciudad es rodeada por las tropas enemigas.
 b. En este momento la ciudad está rodeada por las tropas enemigas.

この例文に言及して、“*se* denota acción (y por lo tanto agente) en las variantes agentivas de los verbos citados, lo que indirectamente produce la interpretación activa (y hasta la presencia de movimiento) ...frente a la situación estática ...”と説明し、(b)の*por*句を「擬似動作主」*pseudoagentivos*と呼んでいる。

b. El servicio está ocupado por el pasajero francés.

(28) *La bandera japonesa está cortada por los manifestantes.

(26) では主語である「通り」(la calle) を遮断できる連続体として, (a) のデモ隊 (los manifestantes) が por 句をとることには問題ないが, (b) のデモ隊のリーダーのような 1 個人では不可能であることがわかる。同じことは, 広がりをもつ (27a) の「キャンパス」(el campus) を占拠する集合体としての軍 (el ejército) にも当てはまる。一方, (27b) のように「トイレ」(el servicio) では 1 人の人間が十分空間を占めることができるので (26b) のように非文とはならない。一方, 同じ, 'cortar' (「切る」, 「遮断する」の両義をもつ) という動詞で, 同じ動作主の「デモ隊」(los manifestantes) を用いても, 対象が空間ではない対象物「旗」(bandera) では, 本来の「切る」の語義で用いられてしまうため非文となることがわかる。

2. 1. 1 「無生句」タイプ

これまで, 位置関係動詞が人間動作主 por 句をとる例ばかりを見てきたが, (29) のように, 無生物の por 句—地理的・空間的実体—を伴う <estar + 過去分詞> 構文も存在し, 能動文 (30) とも対応する。

(29) a. La ciudad está rodeada por las montañas. (De Miguel 2000: 212)

b. La casa está flanqueada por un hermoso jardín. (Marín 2004: 62)

(30) a. Las montañas rodean la ciudad.

b. Un hermoso jardín flanquea la casa.

しかし, 前節で見た動作主句タイプとまったく異なる性格をもつことがわかる¹²。まず, 語彙アスペクトを調べてみる。(31) からわかるように限界性が認められない。

(31) a. *La verja rodeó el edificio en un año. <en + 時間>

b. *Una vez rodeado por la verja, el edificio ganó en seguridad. <una vez + 過去分詞>

¹² この無生句タイプの構文は por の代わりに「前置詞 de」による句と交替する可能性をもつ (Bosque 1999: 295).

(i) a. La ciudad está rodeada de montañas.

b. La finca está jalonada de árboles.

c. Las montañas están cubiertas de nieve.

また、(32) のように進行形をつくることができないところから継続性をもたないこともわかる。

(32) *La verja *está rodeando* el edificio.

さらに、ser 受動文との間にも平行性が認められない。

- (33) a. La ciudad {*está* / **es* / **fue*} rodeada por las montañas.
 b. El camino {*está* / **es* / ??*fue*} cortado por un gran árbol.

このことから、「無生 por 句」をとる位置関係動詞は、(29) (30) が示すように、態の変換 (diátesis) が起こるとしても、語彙アスペクトについては、<estar + 過去分詞> 叙述文とも、人間動作主句を伴う (19) のタイプとも異なることが理解できる。無生句を伴う (29) を動作主句をとる (19) と関連づける試みは今後の課題となるが、ここではいくつかの考え方を示しておくことにしよう。

(i) まず、人間動作主をとるタイプを基本とし、無生句タイプはその動作を「架空の動き」(fictive motion) として受け継いでいるとする見方がありうるだろう。国広 (1985: 8) は、(34) の例を引き、「客観的に見れば物の動きはあり得ないのに、あたかも動いたかのようにとらえている…これを『痕跡的認知』と呼ぶことにする」と述べている¹³。

- (34) a. その道は鉄道と川にはさまれている。
 b. 住宅街は表通りからひっこんでいる。

「場所のように本来は動かないものが移動した結果であるかのようにとらえて位置関係を示す一種の表現法 (動的動詞の静的用法) であると解釈」する。いま問題にしている位置関係動詞でいえば、(35a) の動きを原型とし、(35b) はその痕跡的状態の表現タイプであると考えるのである。

- (35) a. La casa *está rodeada* por la policía.
 b. La casa *está rodeada* por la verja.

¹³ Talmy (2000) vol. 2, Jackendoff (1983) Ch.9: 'Semantics of Spatial Expressions', 佐藤 (1999) なども参照。

なお, Conti (2004: 28) は空間において位置関係を維持する二者は「地 fondo と図 figura」(Talmy 2000) の関係にあるという。能動文 (El bosque rodea la colina.) を無標と捉え, 受動文 (La colina está rodeada por el bosque.) は場所格倒置構文 (inversión de locación) としての変異形にすぎないと見ている。しかし, この場所格倒置構文がなぜ, estar 受動文の形式をもつのかについては説明がなされていない。

(ii) (29) のような無生 por 句を伴う場合に, その「過去分詞」が動詞派生形式というよりは, そもそも形容詞であるとする考え方も存在しうる。Conti (2004: 30) によると, 疑問文 ¿Cómo está X? に対する答えは同じ過去分詞でも形容詞の (36a) やいま問題になっている (36d) の無生 por 句をとる位置関係動詞受動文のように適切な返答として成立するものと, 他方, (36b) の <estar + 過去分詞> 叙述文や (36c) の人間 por 句をもつ estar 受動文のように成立しないものがあるという。

- (36) a. ¿Cómo está el pastel? → El pastel está *rico*.
 b. ¿Cómo está el pastel? × → El pastel ya está *hecho*, pero las rosquillas no lo están.
 c. ¿Cómo está Cisjordania? × → Cisjordania está *ocupada* por el ejército y Gaza también lo está.
 d. ¿Cómo está la colina? → La colina está *rodeada* por un bosque, pero el lago no lo está.

(または, La colina está completamente *rodeada* por un bosque.)

ここで, 無生句受動文 (36d) が, (36a) の形容詞 (*rico*) と同じく応答を許容することが注目される。すなわち, (36d) の過去分詞 “*rodeada*” を “*rico*” のように形容詞であるとみなす根拠の一つとなるかもしれない¹⁴。

¹⁴ また, 能動態 (ia) と受動態 (ib) で動詞の語彙アスペクトに差があると認める考え方もありうる。

(i) a. La valla *rodea* la finca.

b. La finca *está rodeada* por la valla.

(i) を, 同時性を表すと考えられる <Cuando 節> および <AI + 不定詞> に挿入してみると, それぞれ能動文の方が受け入れられる可能性が低いことがわかる。

(ii) a. ?Cuando una valla rodea la finca, no permite entrar a ningún ladrón.

b. Cuando *está rodeada* por una valla, la finca es un lugar seguro.

(iii) a. *Al rodear la finca, la valla no permite entrar a ningún ladrón.

b. Al *estar rodeada* por la valla, la finca es un lugar seguro.

これは受動態の方が, 一定量の限界性 (有界性 no acotado: Marín 2004 参照) を帯びていること, したがって, 限界性を要件とする <estar + 過去分詞> 叙述文や estar 受動文との何らかのつながりを示唆しているのではないかと考えられる。

2. 2 因果関係動詞

つぎに「因果関係動詞」を検討してみよう。論理主語が原因・条件などを、そして目的語がその結果を表し、二者の間に恒常的關係が含意される。また、*por* 句が必須成分である。(37)がその動詞例であるが、位置関係動詞とは違って、論理主語は原因・条件などの意味役割をもつため、無生物が基本となる。

(37) *condicionar, causar, provocar, originar*

(38) a. *Las alergias están provocadas *(por el polen).*

b. *Su depresión está causada *(por el estrés).* (ともに Marín 2004: 62)

語彙アスペクトでは、*<en + 時間>* (39) や *<una vez + 過去分詞>* (40) などのテストから限界性が確認できる。

(39) a. *El polen le provocó alergia en pocos días.*

b. *La catástrofe condicionó una gran recesión en poco tiempo.*

c. *El estrés le causó la depresión en pocos días.*

(40) a. *Una vez provocado por la sequedad, el incendio arrasó el bosque.*

b. *Una vez condicionada por la catástrofe, la economía del país quedó arruinada.*

c. *Una vez causada por el estrés, la depresión nunca se quita.*

また、進行形チェックから継続性をもつこともわかる。

(41) a. *El polen está provocando alergia.*

b. *El estrés está causando depresiones.*

c. *La catástrofe está condicionando la economía del país.*

ser 受動文との平行性も見られる。

(42) *La depresión {está/ es/ fue} causada por el estrés.*

この点でも位置関係動詞と類似する複合的な語彙アスペクトをもつと考えられる。一方、上述のように、因果関係動詞は論理主語が原因を意味役割として担っているため、当然人間主語

に典型的に見られる動作主性を確認することができない。

2.3 支配関係動詞

(43) の「支配関係動詞」も <estar 受動文> をつくり、能動文とも論理的に等価な解釈がなされる。ここでも *por* 句が義務的に伴われ、二者（支配者と被支配者）の間に持続的關係が認められる。

(43) *gobernar, dominar, dirigir, regir, atender*

(44) a. Este país está *gobernado* por un rey extranjero.

b. Este proyecto está *dirigido* por un equipo de investigadores.

c. El país está *dominado* por una política abusiva.

(45) a. Un rey extranjero *gobierna* este país.

b. Un equipo de investigadores *dirige* este proyecto.

c. Una política abusiva *domina* el país.

支配関係動詞の特性を調べてみよう。

①語彙アスペクト：(46) の <una vez + 過去分詞> や (47) の <acabar de + 不定詞> テストから限界性をもつことがわかる¹⁵。

(46) a. *Una vez gobernado* por un rey extranjero, el país quedó arruinado rápidamente.

b. *Una vez dominado* por una política abusiva, el país quedó arruinado rápidamente.

(47) a. Un rey extranjero *ha acabado de* gobernar el país.

b. El jefe *ha acabado de* dirigir el proyecto.

c. Una política abusiva *ha acabado de* dominar el país.

¹⁵ しかし、位置関係動詞や因果関係動詞のように <en + 時間> による限界性が容認されない。

(i) **gobernar el país en pocos días / *dirigir el proyecto en pocos días / *dominar el país en poco tiempo*
ただし、「(時間が) ~経ったら ... 支配し始める」の意味では正文となるという母語話者 (V́ctor Calderón 氏) の観察がなされる。この点については、「支配関係動詞」が、支配の開始点と支配を達成した終結点の2つの時点において限界性を持ち、<en + 時間> テストでは最初の支配開始点に焦点があたってしまうので、支配体制に入った時点を表す二つ目の限界点を修飾できないことに起因するのではないかと考えるが、今後の検討課題としたい。

また、進行形が可能であるため、継続性を含んでいる。

- (48) a. Un rey extranjero *está gobernando* el país.
 b. Una política colonialista *está dominando* el país.
 c. El jefe *está dirigiendo* el proyecto.

さらに、*ser* 受動文との平行性も確認できる。

- (49) Este país {*está/ es/ fue*} gobernado por un rey extranjero.

このように支配関係動詞についてもこれまでの2つの関係維持動詞と同じく複合的アスペクト構造をもっているのではないかと考えられる。

②動作主性：基本的に支配者を論理主語としてもつこのタイプの構文では、*por* 句が人間動作主であることは自然である。意図を表す副詞 (*deliberadamente*) や意図性の〈*para* + 不定詞〉句が可能であることがこれを裏づける。

- (50) a. La investigación *está dirigida deliberadamente* por un científico francés.
 b. La investigación *está dirigida* por un científico francés *para esclarecer* la causa de la enfermedad.

3 結 論

[1] 本論では、スペイン語教育などであまり扱われることはないが、日常頻繁に遭遇する、*por* 句を義務的に伴う〈*estar* + 過去分詞〉構文について観察してきた。その結果、2つのタイプに分ける必要があることがわかった。

まず、〈*estar* + 過去分詞〉叙述文の下位類である、作成動詞によるものである。義務的な *por* 句を伴うのであるが、本来の動作主の働きをもたないので受動文を構成しているとはいえない。

(51) 関係持続動詞による<estar 受動文>まとめ

	位置関係		因果関係	支配関係
	動作主句	無生句		
語彙アスペクト	過程+限界+現在進行	状態	過程+限界+現在進行	
ser 受動文	○	×	○	○
por 句	○	×	○	○
estar 受動文	○	○	○	○
por 句	○	○	○	○

一方、<estar 受動文>と認めることができるのは、「位置関係動詞」、「因果関係動詞」、「支配関係動詞」の3種類の下位類をもつ「関係維持動詞」による<estar+過去分詞+por 句>構文であった。ともに、動作主性を備え、論理主語と目的語の間にダイナミックな態の変換が見られるからである。語彙アスペクトについては、達成動詞固有の継続性（限界点に先行する過程P）と限界性（過程が完結する時点L）をもち、さらにser受動文との平行性から「現時点を含む進行行為を表す一種の状態性」¹⁶も併せ持つと考えた。これはアスペクトの複合体を意味するが、その性格をさらに調べる必要があるだろう。(51)はこのような「関係維持動詞」の特性をまとめたものである。

[2] 今後の課題として、関係維持動詞の下位類だと考えられるもう一つのタイプの「関係構成動詞」についてふれておきたい。(52)のような動詞も「構成要素」を表す論理的主語と「構成物」である論理的目的語の間に恒常的關係が成り立つことが観察される。

(52) *constituir, formar, componer, organizar, integrar*

(53) a. Esta comisión está *formada* por diez miembros.

b. Diez miembros *forman* esta comisión.

por 句を義務的に伴う(53a)の受動文は(53b)の能動文と等価的關係にある。アスペクトの点でも、限界性(54a)や継続性(54b)を含んでいるし、(55)のようにser受動文との平行性も現在時制では見られる。

¹⁶ 行為が現在を含め進行しているというアスペクトのことを意味するのであって、「現在進行形」を表しているのではないことに注意されたい。

- (54) a. Formaron la comisión *en un día*.
 b. *Están formando* una comisión.
 (55) Esta comisión {*está/ es / ??fue*} formada por diez miembros.

さらに動作主性も備えうるように思える。

- (56) a. ?La comisión *está formada deliberadamente* por diez miembros.
 b. La comisión *está formada* por diez miembros *para esclarecer* la verdad del caso.

しかしながら、すでに見た3種の関係維持動詞と異なる特性をもつことにも気がつく。すなわち、(53a)の「委員会」(la comisión)を構成する動作主に二つの可能性がありうるという点である。構成要素(「10人のメンバー」)が動作主として委員会を構成した場合と、それとは別に組織化を命ずる誰か責任者が存在する場合である。後者の場合にも対応する能動文があつて、それは(53b)とは異なるはずである。しかし、どのような形式になるのかは明らかではない。por句が無生物の場合はさらにこの複雑さを増す。

- (57) a. La máquina *está compuesta* por todas estas piezas.
 b. Todas estas piezas *componen* la máquina.

(57)に見る、「機械」(la máquina)とその「パーツ」(estas piezas)の構成関係では、組み立てる動作主の存在を前提にする能動文も存在するはずであるが、ここでもその形式との対応関係が問題となる。

文 献

- Bosque, Ignacio (1979) "Perspectivas de una lingüística no discreta" (ed. Abad, F. et al.) *Metodología y Gramática Generativa*, pp. 81-111, SGEL.
 ——— (1999) "El sintagma adjetival. Modificadores y complementos del adjetivo. Adjetivo y participio", *GDLE*, cap. 4, pp. 217-310.
 Conti Jiménez, Carmen (2004) "Construcciones pasivas con *estar*", *Estudios de Lingüística*, 18, pp. 21-44, Universidad de Alicante.
 De Miguel, Elena (1992) *El aspecto en la sintaxis: Perfectividad e impersonalidad*, Ediciones de la Universidad Autónoma de Madrid.
 ——— (1999) "El aspecto léxico", *GDLE*, cap.46, Espasa Calpe.
 ——— (2000) "Relazioni tra il lessico e la sintassi: Classi aspettuuali de verbi ed il passivo Spagnolo", *Studi Italiani di Linguistica Teorica e Applicata*, 2, pp. 201-217.

- (2004) “La formación de pasivas en español. Análisis en términos de la estructura de *QUALIA* y la estructura eventiva”, *Verba Hispánica* XII, pp. 107-129, Facultad de Filosofía y Letras de la Universidad de Ljubljana, Eslovenia.
- Fernández Lagunilla, M. y De Miguel, E. (2000) “El operador aspectual SE”, *Revista Española de Lingüística*, 30-1, pp. 13-43.
- Gracia Fernández, Luis (1999) “Los complementos adverbials temporales. La subordinación temporal.” *GDLE*, cap. 48, pp. 3129-3208.
- Grimshaw, Jane & Vikner, Sten (1993) “Obligatory adjuncts and the structure of events”, (ed. E. Reuland et al.) *Knowledge and Language*, pp. 143-155, Kluwer Academic Press.
- Hengeveld, K (1986) “Copular verbs in a functional grammar of Spanish”, *Linguistics*, 24, pp. 393-420.
- Jackendoff, Ray (1983) *Semantics and Cognition*, MIT Press.
- Marín, Rafael (2000) *El componente aspectual de la predicación*, Tesis doctoral, Universidad Autónoma de Barcelona.
- (2004) *Entre ser y estar*, Arco Libros.
- Moreno Cabrera, J. C. (1991) *Curso Universitario de Lingüística General*, tomo 1, Síntesis.
- Morimoto, Yuko (1998) *El aspecto léxico: delimitación*, Arco libros.
- Porroche, Margarita B. (1988) *Ser, Estar y Verbos de Cambio*, Arco Libros.
- Pustejovsky, James (1998) *The Generative Lexicon*, MIT Press.
- (1991) “The syntax of event structure”, *Cognition*, 41, pp. 47-81.
- Sánchez López, Cristina (2002) “Las construcciones con *se*. Estado de la cuestión”, (ed. Ignacio Bosque) *Las construcciones con se*, Visor.
- Takagaki, Toshihiro (2005) “On the productivity of the Spanish passive constructions”, (eds. Takagaki et al.) *Corpus-based Approaches to Sentence Structures*, John Benjamins.
- Talmy, Leonard (2000) *Toward a Cognitive Semantics*, vol. 1, MIT Press.
- Vendler, Zeno (1967) *Linguistics in Philosophy*, Cornell University Press.
- 小野尚之 (2005) 『生成語彙意味論』くろしお出版.
- 国広哲弥 (1985) 「認知と言語表現」『言語研究』88, pp. 1-19.
- 佐藤琢三 (1999) 「ナッテイルによる単純状態の叙述」『言語研究』116, pp. 1-21.
- 高見健一 (1995) 『機能的構文論による日英語比較—受身文、後置文の分析—』くろしお出版.
- 田中裕司 (2002) 「動作主句の随意性と受動文の類型」『事象と言語形式』筑波大学現代言語学研究会編, 7章, pp. 199-226, 三修社.
- 高垣敏博 (1999) 「語彙アスペクトとスペイン語の<estar+過去分詞>構文」『東京外国語大学百周年記念論文集』, pp. 139-168.
- (2004) 「スペイン語受動文の生産性について」『スペイン語学論集：寺崎英樹教授退官記念』 pp. 72-82, くろしお出版.
- (2005) 「<estar+過去分詞>構文 (1)」『スペイン語学研究』20, pp. 105-121, 東京スペイン語学研究会.

Sobre la construcción <estar +participio pasado> (2) —la pasiva con *estar*—

TAKAGAKI Toshihiro

A diferencia de la construcción atributiva <estar + participio pasado> del tipo (1), que representa el estado resultante de una acción precedente y que se caracteriza por su incapacidad de ser acompañada del sintagma agentivo encabezado de la preposición *por*, las construcciones que aparecen en (2) permiten seguirse, sin mayor problema, de dicho constituyente oracional.

- (1) La puerta está abierta (*por el bedel).
- (2) a. El edificio está *rodeado* por la policía.
 b. La depresión está *causada* por el estrés.
 c. Este país está *gobernado* por un rey extranjero.
- (3) a. La policía *rodea* el edificio.
 b. El estrés *causa* la depresión.
 c. Un rey extranjero *gobierna* este país.

Las tres clases de construcciones, que denotan relaciones “locativa”, “causal” y “gobernante”, respectivamente, y se subsumen bajo un mismo grupo de verbos que denominamos de “relación prolongada”, tienen en común una serie de propiedades tanto sintácticas como semánticas, por las que se las puede considerar “pasivas con *estar*” como son: (i) diátesis observada entre la pasiva en (2) y la activa (3); (ii) agentividad implicada; (iii) estructura aspectual compleja, compuesta de “proceso” (que precede a la perfección de una acción), “límite” (perfección de dicha acción) y “acción en curso” (“presente extendido” según Bosque 1999: 293).

	Relación locativa		Relación causal	Relación gobernante
	Sintagma agente	Sintagma no animado		
Aspecto léxico	Proceso + Límite+ Acción en curso	Estado	Proceso + Límite + Acción en curso	
Pasiva con <i>ser</i>	○	×	○	○
Por ~	○	×	○	○
Pasiva con <i>estar</i>	○	○	○	○
Por ~	○	○	○	○

Se aprecia, sin embargo, la falta de este paralelismo en el caso de la relación locativa al tratarse del caso en que el sintagma preposicional carece de agentividad (“las montañas”) como en el ejemplo (4), por lo cual se define difícilmente como una construcción pasiva propiamente dicha.

(4) La ciudad está *rodeada* por las montañas.